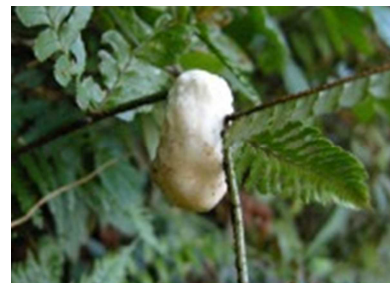


目立つ白

1. 白い泡の犯人

8月下旬から下草の藪に白い泡の塊が目につくようになります。5月に見られるアワフキの幼虫が隠れている泡とは感じが違います。泡の粒々が見られません。また、アワフキはいろいろな木や草に泡を付けていますが、この時期の泡はシダの葉柄(ようへい)に付いています。打吹山にはベニシダが多いので、付いているのはほとんどがベニシダです。泡の付いている部分で葉柄が折れていることが多いのも気になります。



泡を取り除いて見ると葉柄に穴が開いていますから、割って中を見て初めてうじ虫の存在が確認できます。犯人は、ヨフシハバチ ヨフシハバチの幼虫のいる白い泡 というハチの幼虫です。成虫の触角が4節からなるためこうよばれているということですが、成虫を見たことがありません。ハチらしくなくて、気付いていないだけかもしれません。

ハバチとは葉蜂という意味で、幼虫が葉を食べる植食性のハチです。ハチの仲間は大きく2つに分けられます。胸から腹への部分が細くなっている細腰亜目(アシナガバチなど毛虫を食べたりする肉食性と花粉食のミツバチなど)と、太い寸胴の腹を持つ広腰亜目(ハバチなど)です。ヨフシハバチは葉を食べることなく葉柄内にいますので、吸汁性なのでしょう。アシナガバチの幼虫には脚がありませんが、ハバチの幼虫はチョウやガの幼虫のように脚があります。

2. 葉の白化



ツバキモザイク病

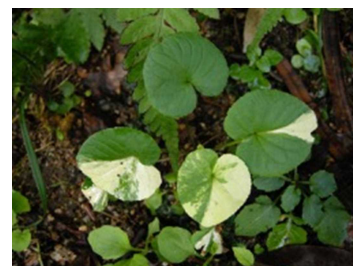
春の発芽時、緑でない葉をつけているものを時々見ます。スダシイでは、全体が白い本葉2枚をつけた個体がまとまって生えている場所(博物館の上の遊歩道など)があります。種子に栄養を持っているので、遺伝的に葉緑体を作ることができなくなっても、しばらくは生きています。部分的な白化は生存でき、園芸では斑入りと呼ばれて珍重されるものもあります。しかし、ウイルスによるモザイク病で、葉が部分的に白くなっているものがある種に存在します。作物としては成長が悪くなるため病気として排除されますが、野生植物は放置されています。空気感染しないことから、広範囲に現れません。アブラムシが吸汁するとき体内に入り、次の植物に口を差し込んだ時に感染します。カによる伝染病の媒介と同じですが、アブラムシは移動が少なく、寄生する植物もアブラムシの種ごとに決まっているため、作物のような大発生はありません。

しかし、徐々に植物を痛めるので、羽衣池の岸にあったヤブツバキは感染部位が広がって枯死してしまいました。打吹山や打吹公園のヤブツバキもかなりの個体に感染しています。ハサミで切って取り除いてやってもよいのですが、そのハサミで他の木を切るとそこから感染します。

春の発芽時、緑でない葉をつけているものを時々見ます。スダシイでは、全体が白い本葉2枚をつけた個体がまとまって生えている場所(博物館の上の遊歩道など)があります。種子に栄養を持っているので、遺伝的に葉緑体を作ることができなくなっても、しばらくは生きています。部分的な白化は生存でき、園芸では斑入りと呼ばれて珍重されるものもあります。しかし、



白化したイヌトウバナ



白化した
オオタチツボスミレ